

夜回り

山田先生

西陵商ラグビー部元監督

▶14◀

選手たちと会話し 体と心の変化を観察



▼山田耕二(やまだこうじ) 名古屋市中区生まれの73歳。元ラグビー日本代表。西陵商(現西陵)監督として1997年、全国高校大会で愛知県勢初優勝に導く。豊田自動織機総監督を経て、現在は愛知県弥富市で老人ホームの理事長を務める。

合宿や遠征の時に必ずやっていたことがある。入浴時間になると、私は真っ先に大浴場へ向かった。生徒たちと言

葉を交わしながら、入浴時間終了まで、のぼせてゆでダコになってしまいそうになりながら、じっと湯船につかっていたのだ。

昔から「裸の付き合い」とまな会話が繰り広げられる。

「一緒に湯船につかっていると、不思議と本音でいろんなことを話せる。」

生徒たちの間では「実は今こんなことで悩んでいて……」、「そういえばお前、このあいだ○○に告白されたそうじゃないか?」などさまざ

「自分のため」だけでなく「みんなのため、監督のため」といった気持ち湧き、より強い力を発揮することが

「太ももがしっかりと聞いたり、時には会話に混ざったり。彼らの心情に寄り添い、一体となることで、より強い絆が生まれる。そう私は思っている。試合でも「自分のため」だけでなく「みんなのため、監督のため」といった気持ち湧き、より強い力を発揮することが

風呂にじっくり入って『裸の付き合い』

りしていれば、それが確認できる。「あしたは肘を突く練習は避けよう」と臨機応変に対応することも可能だった。

もう一つ。「太ももがしっかりと聞いたり、時には会話に混ざったり。彼らの心情に寄り添い、一体となることで、より強い絆が生まれる。そう私は思っている。試合でも「自分のため」だけでなく「みんなのため、監督のため」といった気持ち湧き、より強い力を発揮することが

尻や肘などを擦りむいた